

スマホにあらずば、 ビジネスマンにあらず

手のひらから何が変わったのか



wakaho

はじめに

このタイトルに嫌悪感や忌避感を持つ方は読む必要がありません。単なる流行に流され、流行に乗った内容だろ、とか、スマホの宣伝だろとか感じた方は一切、読む必要はありません。

また、既にスマホを使っている方も、読む必要はありません。既に、この本に書かれている内容で活用していると思われるからです。

ここに書かれている内容は、技術書ではありません。どのようなシーンで活用するかといったことを中心に書いています。また、いろいろなアプリケーションの解説、技術書でもありません。生活の中に、ビジネスの中にスマートフォン(以下、スマホ)が、入ったことによって、いったい何が変わったのかの記録としてここに記載するものなのです。もし、読んでいただくことができ、ご意見をいただけるのであればとも思いネットに掲載したしだいです。タイトルは少し過激かもしれませんが、それくらい自分自身にとってスマホを手にしたことによる衝撃度は大きかったといったことからこのようなタイトルにしました。

もし、今、自分が人事採用する立場で、最終選考に残った同じ成績の学生、人格もすぐれている学生の2人のうち一人しか採用できないとしたら、ケータイを持っているかスマホを持っているかで決定するでしょう。もし、二人ともスマホだったら、使っているアプリケーションの比較をするでしょう。アンドロイドとかiPhoneとかは気にしません。もし、二人ともケータイだったら?使っているSNSやクラウドサービスで決めるでしょう。以前、『Kindleの衝撃』(石川 幸憲 著書)を読んだときに、正直どうかなあと感じていました、が、Kindleではありませんが、スマホで電子書籍を読んだ時に、「これは、とんでもないツールがきたな」と感じました。青空文庫の中にあつた著作の切れた無料の作品、といつても、コナン・ドイルであつたり芥川龍之介の作品であつたりと読み応えある作品ばかりです。電子書籍のイメージは、文字が単にモニタに表示される、そんなイメージしかありませんでした。しかし、実際に使ってみると、様々な機能が組み込まれていました。手のひらサイズですから、通勤で座れない時でも文庫本より手軽に読むことができます。同時に音楽も聴けます。といった具合に。しかも、何冊持っていてても鞆の中は重くはなりません。写真週刊誌、雑誌類を何種類も容量のある限り保管できるのです。つまり、自分の本棚の一部を持ち出して歩いているといったことなのではないでしょうか。

私は、新しいものが大好きです。物だけでなく、ことも。それを見ている知人は、「新しいもの好きだよね。そしてすぐにあきちゃうよね」と何度か言われたことがあります。しかし、それは当たっているとは思いますが、そうではないのです。何が、仕事に役立つか、生活に役立つかを試してみたいのです。新しいものが好きだからというものではありません。そこには、根拠があるのです。使ってみて便利なものなら、時間の節約やコストダウンになるのであれば、使ってみたいという強い欲求なのです。

今、スマホを使うことは、きっと近い将来の変化に対応できるのではないかと考えています。ケータイが残るのか、消滅するのかは、僕には関心がありません。高齢の親にとっては、高齢者用のケータイがいいと思っています。

しかし、今夏の新機種が発売状況みると勢いはスマホにあるのではないのでしょうか。それは、

やはりそれだけ、スマホが便利なツールであると認められた証拠ではないでしょうか。もし、ケータイのほうが優れている、便利であるのであれば、スマホはそれほど新しい機種として発売されることはないのではないでしょうか。

ケータイを15年近く使っていて、本当に便利なものと思っています。しかし、今、ある程度成熟してしまってきた感じがあり、新機種がでるといっても以前ほど興味をもてなくなっているのは事実です。今のままでいいやといったことなのです。

ケータイ市場がどのような状況なのか詳しくはわかりませんが、スマホが大量に導入されたということは、新たな市場の開拓に業界は向かっているのではないのでしょうか。

誰もがスマホを持つ時代が来る前に、就職する学生から、ビジネスマンの皆さん、手のひらから自分の世界観を変えてみませんか。

2011年3月11日。この日を忘れることはできません。家族との連絡、知人との連絡、と現状の連絡、これができたのは、スマホがあったおかげです。もちろん、将来的にはケータイも問題なくなるかもしれませんが。この日を境に、よりスマホを自分の相棒として意識するようになりました。

もし、今、私が企業の経営者であるならば、社員全員にスマホを配布して活用するでしょう。そして、新人研修のプログラムには、ビジネスで活用するSNSという講座を入れます。もし、今、私が学校の経営者であるならば、教職員にスマホを配布して、机にしがみついた作業から、もっともっとフットワークよいスタッフの活用をするでしょう。そして、もう少し進んだ社会になったら、生徒全員にスマホをもたせ、保護者にも持たせるでしょう。それくらい、私にとってスマホを手にしたことは衝撃的なことだったのです。

ケータイからスマホで何が変わったのか。

SNS、クラウドサービス。この二つの実用化というか、日常での利用が常態可してきました。このことによる変化は、情報量の爆発的な増加と考えています。テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、これらのメディアでさえ、今まで多くの情報を見逃してきていますが、それに加えて、インターネット、メール、そして、インターネットの活用としてのblog、ツイッターは私たちを取り巻く情報量環境を一気に加速させました。たった140文字の掲示板のような、ミニブログが、ここまで私たちの生活の中に浸透すると誰が想像できたでしょうか。企業の公式アカウントが次々と登録され、マーケティングに活用されているのです。

私は、ツイッターを文字のラジオだと思っています。一人一人がラジオパーソナリティーなんです。そして、自分の感性に合った人、必要な情報チャンネルだけフォローするといったことです。周波数を合わせる、つまりチューニングですから、面白いことをツイートしている方は、こちらから積極的にフォローします。自分のことはフォローされようが、されまいが気にしません。どうしてもコメントを入れたければ、その方法はあるわけですから。反応はされないかもしれませんが、しかし、ラジオを考えてください。ラジオは受信機といわれるように受け専門です。ツイッターも受け専門でもかまわないのです。何も、自分が眩かなくてもいいのです。

一番重要なのは、今、現在ということです。身近な人をフォローしておく生活情報も入ってきます。もしそれがちょっと嫌だと思えば、簡単に離れることができます。もちろん、インターネットですから、遠くの地域とのつながりも当然できます。

大きな事故やニュースも、ツイッターで知ることが増えました。近所でおきた交通事故や火事など、テレビのニュース、インターネットのニュースにならないようなことも知ることができます。世界的な発信から、局地的ローカルネタまで、ありとあらゆる情報を探そうと思えば、見つけることが可能なのです。よく、信憑性はどうかといわれますが、ツイッターは個人発信情報の蓄積です。その人が過去にどのような発言をしていたかをじっくり見ることにより、情報精度の高さを判断することができます。人格と言うか、発言内容から、その人の人柄までもイメージできるようになります。ラジオのパーソナリティーも同様ですよ。長く聞いていて不快感感じない人もいれば、人気があるにもかかわらず、自分には合わない人がいます。文章も同様です。同じようなギャグを書いている人も不快に感じる人、そうでない人がいます。文字のラジオツイッターも同様です。ツイッターによるローカルなライブ情報はさまざまな場所で、活用できます。

電車の遅延情報などはその代表的なものといえます。「現在、〇〇駅は改札規制中」とか、「復旧までに〇時間の放送ながれた なる」など、ライブ情報が次から次とはいります。それであれば、違う方法で、ルートを変えて通勤するなどができます。

インターネットは世界に通じるといったイメージですが、ツイッターの登場によって、ローカルなライブ情報の活用が促進されました。その他にも各種のメディアをフォローしておけば、新聞の見出しと最新のニュースは確実に知ることができます。もっと詳しく知りたいときは、リンクがあるので、そこから見にいけばいいのです。

次が変わったのがメールの処理です。

ノートパソコンは、96年前後から持ち歩いていました。一時期、NECモバイルギアも使っていましたが、会議に出席するときに、議事録、資料のことを考えるとやはりマイクロソフト・オフィスの使える環境でないと困ることがあり、毎日、持ち歩くのはつらかったのですが、ノートパソコン、そして、ケータイ電話をつないで、通勤車内でメールの送受信をしていました。しかし、パソコンの起動、ネットワーク環境などと考えると効率的ではありませんでした。今は、wi-fi環境がよくなっているので、移動中のモバイルコンピューティングは、飛躍的に楽になっていると思います。

スマホでのメール環境は、gmailがメインです。仕事の内容から各種メルマガまで、一気にタイトルを見ます。そして、必要なものだけお気に入りマークを入れてじっくり読んでから、必要に応じて返信します。入社してから、電話ですぐに回答するものもあります。

もし、スマホを使っていなければ、入社、メールを開いて返信。これだけで、かなりの時間ロスになっていませんか?メールは必要なツールですが、20年近く変わっていないテクノロジーです。

名刺交換して、会社に戻って、パソコンでメールアドレス登録して、メールの挨拶を入れるこんなスタイルが普通の流れですが、スマホ+ツイッターで劇的に変わります。

これは、実際にあったことです。私があるセミナーに一出席していた時のことです。セミナー講師の方が、ツイッターに発言しながらセミナーを進めていました。スマホで、そのツイートを見ながら、私は質問があり、ツイッターで質問をしたところ、同じ会場にいた方も同じように、ツイッターで質問をしていました。面白い質問をされた方でしたので、フォローしました。相手の方もフォローしてくださったので、すぐに、ダイレクトメッセージを送って、セミナー終了後、すぐに挨拶させていただき、そこからビジネスが始まりました。

いままでのビジネス手法とスマホを活用している方とのスピード感が異なります。

大勢の方と名刺交換しても、twitterのアドレスがあると本当に便利です。私がセミナー講師をしたときも、私のツイッターアドレスを伝えて、すぐに、その場で数名の方からフォローされたので、休憩中にすぐにフォローして、終了後は挨拶からではなく、様々な話題から入ることができるという新しい流れができました。

もし、私が経営者であったならば、入社してからメールをしている社員よりも、入社前にメール作業を半分近く終えている社員を作りたいと思います。また、自身のメール対応の経験から、何通もメール返信してようやく終わったと思うと、最初の頃にしたメールの返信が来て、また対応するといったことを毎日のように繰り返していました。それで、午前中の時間をかなり費やしてしまったこともあります。また、何人にもメールを一斉に送信する時、一人抜いてしまったり、アドレス帳の一つ下をクリックしてしまつて間違ってしまったりなどがありました。そんなことも防げる方法がスマホで十分できるのです。

メールによく使われる添付機能、これはどうするのかと言われると思いますが、それにも対応する方法はたくさんあります。それがクラウドの世界なのです。私がよく利用しているのが、ドロップボックスというサービスです。オンラインストレージサービスです。

ネット上の外部記憶装置です。情報漏えいなどの多くは、人による問題です。例えば、成績表

、個人データをUSBに入れて、電車に忘れる、盗難にあうといったことから、データが外部に漏れたことがあります。

もちろん、gmailの添付でもかまわないのですが、資料のやりとりなどは、オンラインストレージにいておくを使い勝手が格段にあがります。

そして、SNSのフェイスブック。このグループ機能を使うと、更に仕事の効率があがります。しかもスマホで十分対応が可能です。わざわざノートパソコンを開くことなくプロジェクトの推進ができるのです。

そして、もう一つ、RSSのアプリケーションを入れておくことです。気になる記事は、これで一気に見出しだけ読みます。

スマホを片手にしたときから、情報収集が、隙間の時間でできるのです。もちろん、情報発信も。

ノートパソコンを起動して使うには、やはりある程度の時間とスペースが必要になります。しかし、スマホであれば、立ったまま、片手で完結できるのです。

情報の受発信とビジネスの隙間の時間が変わったというのが、スマホを入手しての一番の変化です。ケータイの時は身近な人とのメールのやり取りで時間消費をしていましたが。

ビジネスとプライベートのオンとオフは、昔は意識していました。しかし、今のような情報過多社会にあって、ビジネス、プライベートのオン、オフをなくすことによって、プライベートの時間が充実するということに気がきました。オフモードにしてしまうと、見るもの、聞くものが実際のビジネスのヒントのつながることが少ないのですが、シームレスな状態を保つことによって、プライベートな時にも、ビジネスつながるヒントがたくさん見えてきます。それを片っ端から記録するツールとしてもスマホは優れています。

私が使っているケータイは4年ほど前の機種ですが、とてもいらいらすることがあります。それは、写真を撮ると、いちいち保存するかどうか確認されるのです。デジタルカメラは、どんどん撮影して、要不要で、保存するか削除するかは、後からすればいいのですが。それで、必要なものを撮り損ねたこともあります。そんな小さなストレスからも開放されるということは、とても快適になります。ちなみに、私はいつもデジタルカメラを携帯していますが、スマホを持つようになってからは、出番がかなり減りました。

もう一度繰り返しますが、ビジネスシーンにおいて大きな変化が、スマホによってもたらされました。時間コスト、そして情報の収集力の強化です。

つながりからできること 番号知らなくても通話可能

自分が所属する企業、組織によって異なると思いますが、スマホとケータイではその繋がりがまったく変わります。ケータイにあるアドレスとスマホにあるアドレスは、ほぼ近いと思いますが、更に、パソコンのメールアドレスがくみこまれます。そして、もっと大きな枠組みでのつながりSNSのデータです。

私だけの問題かもしれませんが、いままでの日本のSNSでは、ビジネスをしようする気がまったく起きませんでした。また、ビジネスで使いましょうといった発想もありませんでした。

それが、今は違います。実名登録のSNS、フェイスブックの登場がそのあり方を変えました。

ツイッターは実名でも匿名でもどちらでも発信が可能です。著名な方は実名と顔写真が多いですね。大勢の人に伝えたいときに便利なツールです。個人はもちろんのこと、企業、学校の公式ツイッターなどは、情報の質が人とのつながりになります。フェイスブックは、どちらかというとりリアルな関係が基本になります。見ず知らずの人とつながるツイッターとは質がちがいます。リアルで会う、もしくは、リアルに近いような情報のやり取りを行うといった人たちとのつながりになります。

今年は、様々な地域で、イベントが自粛される年になりました。私の住む地域でも、毎年行われていた大きなイベントが3つ中止になりました。それに反発というわけではありませんが、手作りのイベントを開催することになりました。

その時に活躍したのが、フェイスブックです。約50人のイベントスタッフが集まりました。知っている人もいれば、ネットでも初めてつながった人もいました。約1ヶ月の準備期間。実際に全員が顔をあわせたのは、当日です。中には、事前準備は手伝っていただいたものの、当日、仕事で参加できずに、結局、会うことのできなかつた方もいました。

今、確認したらフェイスブックには60人のスタッフが登録していました。主に、グループ機能を活用しました。チラシの準備から、関係各所への挨拶、当日のプログラムなど、その作業のほとんどがネット上で決まり、それにしたがって皆さん動きました。

当日、スタッフは、白のTシャツか、ポロシャツ、朝、スタッフとわかるテープを貼りましょうなどの指示もきていました。

5月14日土曜日 茅ヶ崎のサザンビーチでの、津波避難訓練を兼ねたイベントは、無事、終了しました。フェイスブックは実名登録が原則です。それが、今回はよかったと感じています。初めて会ったときもちゃんと、お互い名前呼び合うことができました。ハンドルネームってなんだか気恥ずかしいです。とくに、かっこよすぎるハンドルをつけてしまうと。

そして、もうひとつ、今、私自身、他の組織の方と共同作業をしています。SNSとクラウドを活用しています。この業務の速度が半端でない勢いで進める事ができています。各種の情報をリンクして、データをアップして意見交換。実際に会うのは、どうしても決めなくてはいけないことだったり、一緒にできないことのみです。移動にかかるコスト、場所、時間の調整はほとんどしません。休日でも、ネットに作業状況をいれています。これは、スマホ導入の効果です。ビジネスとプライベートがシームレスになっています。

内部の人とSNSを利用すれば、内部の会議や作業の進捗はかなりの変化を感じられると考えています。

今まで、メールで情報発信して、資料添付して、以前のメールを検索したり、返信の文章が入ってるので、よくわけわからなくなったりしますが、フェイスブックのグループ機能を使うと、とてもよく整理されているので、途中からプロジェクトに入る人でも、理解までの時間が短縮されます。従来ですと、いままでのメールを全部転送されて読んでくださいといわれてもつらいものです。

しかし、このグループ機能であれば、とてもわかりやすく整理されています。でも、皆から見られてしまうのではないかとの心配もあります。フェイスブックは公開の設定が細かくできるのです。普通の書き込みは、友達まで公開して、グループでは招待された人しか見られないとか。さらに、そのグループが作られていることすら他の人にはわからないようになっています。

最近面白い機能をもったアプリができました。フェイスブックに登録していて、そのアプリを双方がインストールしていれば、電話番号がわからなくても通話ができるのです。もちろん無料で。近々、アンドロイドのスマホにもそのアプリができるので、使用しているOSに依存されずに、通話ができるのです。

SNSではつながっていても、電話番号までは交換していなといった場合に便利ですし、イベント時にいちいち、番号交換して、登録してといった面倒な手間がいらぬのです。

データ消去による番号の喪失といったことももうなくなるということです。ケータイは、機種変更するとき、完全移行できないことがありましたよね。今は、改善されていますが。

実は、最近私のケータイがハードトラブルにより、全データが消去されてしまいました。700件近くはいていたデータは、もう復旧できません。私のスマホは、OSのバージョンアップによって、PCとデータ交換しているの、万が一、何かあった場合でも、また機種が変わってもデータ移行にトラブルは低いと考えています。

スマホを持つことによってできるつながり、そして、そのつながりから、できることは、今までの作業を加速するといったことを実体験で実証できました。ケータイとスマホ、機能で見ると、基本的機能(話す、メール、ネット、カメラ)は似ていますが、そこで使えるアプリ(ソフト)の活用において、圧倒的にスマホのほうが、リアルなビジネスのサポート機能としては高いのです。

仕事で使うことがなければ、ケータイでもかまわないかもしれませんが。しかし、ビジネスとプライベートがシームレスになってくると、やはりスマホを使うほうが、効率よくそして、効果が高いと言わざるを得ないと考えています。手のひらにパソコンがあるのですから。そして、起動も圧倒的に早く、操作は軽快、必要なツールの多くは無料で手に入ります。有料でも250円程度で入手できます。

スマホでつながることで、ビジネスを動かすことができるのです。

スマホにあらずば、ビジネスマンにあらず

なぜ、このようなタイトルにしたかという、爆発的に増えた情報量、それらを上手に整理して使いこなすことが、これからのビジネスマンには求められると考えているからです。そうすることによって、時間の使い方も上手になり、プライベートも充実することができるのではないのでしょうか。

これからは、プラットフォームの時代になります。既になっていると思います。ですから、自分と一緒に仕事をする人には、自分と同じプラットフォームになって欲しいと考えています。同じ位置に立つことによって、さまざまなことに変化がおきて、時間コストと膨大な量の情報処理が可能になります。macとかwinとか言ったレベルではなくなってきているのです。

ある人がケータイであるために、メールを読み、会社のパソコンを見に行かなければならない。休日挟んでしまうから、また月曜日に打ち合わせしなければならない。そんな面倒なことはしたくないんです。スマホでなくて、タブレットでもいいのですが、通話のしやすさ、携帯のしやすさを考えると、やはり今は、スマホがいいと考えています。

寝床でも、仕事のメールがチェックでき、グループの最新情報がSNSにあがる。明日の朝は、何をチェックして自分はどんな提案をすればいいのか考えながら寝る。そんな時代になっているわけです。

簡単に1日の流れを追って見ましょう。

起床 6時 スマホの電源をいれ、メールとRSSの更新とチェック。朝食を摂りながら見ることができます。

通勤 twitterで、ローカル情報収集しながら、必要なメールにチェックを要れ、ニュースの見出しに目を通す。必要なニュースだけ記事を読みます。

会議資料の確認 前日までに、配布予定の資料は全て提出されているので、目を通して意見を考えてまとめておきます。必要な言葉は、音声にしてもかまいません。

午前中の会議が開始 従来なら会議の前後に山のようなメールの処理がありましたが、必要なメールは通勤途中に返信済みなので、会議に集中することができます。

会議では、全員が資料を読んでいるので、意見交換後、課題に対しての対策がどんどん確定していきます。時間の流れが今までとはまったく異なっています。提出済みの資料に対していくつかの質問はありましたが、想定済みであったし、既に関連する質問は、グループの掲示板に出されているので、補足資料や根拠となるURLを入れて他のメンバーにも説明済みなので、確認作業のみとなりました。

課題となっている議案についても、担当者と対策が決まりました。

会議の記録は音声で記録終了。確認事項は、その場にいたメンバーに確認しつつ作成して、グループのSNSに投稿。さらに、関連する部下にも伝わり、指示を出し終え、早いスタッフはすでに確定した作業に取り掛かっています。

こんな形で、予定より早く会議が終わり、ブレストを行うことになりました。

朝見た様々な情報を組みあわせて、自分たちの業種にあった新しい企画ができないのかを話し

ました。ブレストの記録もグループの投稿しておきます。いつか、何かの役に立つかもしれません。

月曜日の朝、2時間で会議は終了しました。従来であれば、この後に議事録がメールで流れるといった手順でしたが、今は違います。全員が、スマホを持っているので、議事録のメール配信はありません。すべて、SNSプロジェクトのグループの中にデータが保管されています。

スマホとSNS、クラウドサービスの導入が、組織の活動に与える影響のイメージです。というよりか、自分の生活は、ほぼこの形になっています。

ほとんどの人が、持っている情報は共通してきました。知るのが数分早いか、遅いかといった時代になっています。

一人だけが知りうる情報といったものは、世の中に出ているものとしては、もうないといったほうがいいのではないのでしょうか。

これからは、持っている情報をどれだけ組み合わせ、新たなものをつくりだすかといった力。そのために、さまざまなメモがスマホに入れられている、アイデア発想というより、アイデアの元記録といったものもちきちんと整理しておく。そんな時も、スマホの音声や動画は貴重な生の資料になるのである。自分が出先でみた気になるものやことが納められていて、簡単に関係者に共有でききるのです。

もちろんスケジュール管理も。共通に、共有化は簡単にできます。

今までは、席の固定電話にかかってきたが、もう、そんなことはほとんどないので、固定電話の廃止を提案してみませんか。座席の位置が変わったから、電話番号も変わって、紙でそれが社員に配られたりしたのは、遠い昔のことです。今は、社員全員がSNSに入って、共通のアプリを入れているので、電話番号など知らなくても直接かけてくることができます。外部の方は、会社の代表番号などにはもうかける時間不要なのです。直接担当者に連絡すればすむのです。

組織のヒエラルキーを根底から覆す道具になるかもしれないのが、スマホです。

今までは、上司を通して、提案していたことが、フラットになることにより、誰でも同じ条件で提案できる時代になったのだから。途中で握りつぶされず、途中で発案者が変更になることなどない世界になったのだから。

今、もし、自分が一緒に仕事をする人を選べるのなら、同じ力量であれば、スマホを使いこなしている人と組みたいと思います。すでに、就職活動している大学生にもスマホとケータイで差がでてきているの時代になりました。もっと厳しい現実の社会において、その活用しだいでは、圧倒的差をつくることはできいなかもしれないが、その積み重ねが、1年、2年先には形となって現れると考えています。

スマホも問題が無いわけではありません、通信環境やバッテリーの持ちなどの課題はありますが、それも改善されることは目に見えてわかっています。だって、昔は、肩から吊り下げて携帯電

話を持っていたのですから。

スマホにあらずば、ビジネスマ人あらず。過激的なタイトルですが、そういった新しいことを上手に使いこなすことが、これからのビジネス成功要因の一つではないでしょうかといった提案なのです。

近未来ビジネスステージ

終わりに、2002年に公開された、フィリップ・K・ディック原作、スティーブン・スピルバーグ監督作品に、『マイノリティー・リポート』という映画があります。

私はこの映画を繰り返し見ました。話が面白いかどうかは、別の機会にと思いますが、この作品が描かれている世界が2050年をイメージした世界だったからです。

私たちが子供のころに、腕時計型の通信機器でモニターに相手の顔が写るテレビ電話のような物が登場する作品がありました。子供の頃、凄いなーと思っていましたが、本当にできるかどうかなど考えたこともありませんでした。大阪万博の映像を見ると1970年代、すでにワイヤレス電話や、音声認識の技術が発表されていたことがわかります。

2050年の世界を描いた映画にもきっと、いつの日か実現するテクノロジーがあるのではないかと思ったから、繰り返し『マイノリティー・リポート』を見たのです。マウスを使わずに入力するパソコン、個別にレコメンドする広告看板、図書館のシステムなど随所に近未来を感じさせるものがありました。

NTTドコモの宣伝をご覧になったかたは多いと思います。俳優の渡辺謙さんが、まるで召使、コンシェルジュのように、ケータイを持っている人のそばでサポートする宣伝です。

今、ひとつ気になることがあります。自動車とスマホの融合です。きっと、先端的な研究はかなりすすんでいるのではないのでしょうか。

ケータイで独自の文化をつくりだしたこの国が、今は、スマホに変化し始めています。同様に、カーナビの発達したこの国の次なるものは、車とスマホの融合ではないのでしょうか。タブレットかもしれませんが。一昔前は、家に帰ってまでパソコンやりたくないよ。仕事だけで十分だよという人がいましたが、今うどうでしょうか。

ビジネス、プライベート両方に活躍できる機器のスマホが仕事もプライベートも豊かにしてくれていませんか？

2050年を描いた世界に登場した様々な近未来機器、スマホはその元祖になるのではないかと思います。キーボードがないのにキーが入力できるんです。もちろんタッチは必要ですが。新しいツールのスマートフォンを使ってみて、自分のビジネスやプライベートに活用したいと思いませんか？

スマホにあらば、ビジネスマンにあらば

<http://p.booklog.jp/book/26615>

著者 : wakaho

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/wakaho/profile>

海をこよなく愛しています フェイスブックページ 海大好き <http://www.facebook.com/umidaisuki>

発行所 : ブクログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/26615>

ブクログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/26615>